

■ 新たな事業ポートフォリオ

ほくでんグループを取り巻く経営環境の変化

- ほくでんグループを取り巻く経営環境は、以下のとおり大きく変化しています。

地政学・国際情勢

・ロシアによるウクライナ侵攻、パレスチナ紛争が長期化しており、国際情勢が不安定化している。

「エネルギーの安全保障」の重要性を再認識

脱炭素化に向けた潮流

・COP28において、「温室効果ガス排出量を2035年までに19年比60%削減」「この10年で化石燃料からの脱却を加速」等の方向性が確認された。

益々の脱炭素化の要請の高まり

国内政策の動向

・GX推進戦略において、再エネの主力電源化や原子力の活用方向性が確認されるとともに、計画的な脱炭素電源投資の促進や、水素・アンモニアの生産・供給網を構築することが示された。

・成長志向型カーボンプライシングの構想とともに、今後10年間に150兆円超の官民GX投資を実現する旨が表明された。

安定供給と脱炭素化の両立に向けた政策の導入検討

道内の環境変化

・北海道の豊かな自然や再エネ発電事業の適地としてのポテンシャルを背景として、次世代半導体工場や大型データセンターといったデジタル産業の道内進出の動き。さらには関連産業の集積も見込まれる。

・道内全体で見ると、全国を上回るペースで高齢化・人口減少が続いており、将来的に地域産業やインフラサービスを支える担い手不足が懸念される。

道内経済の発展や産業進出、雇用創出の可能性

深刻な地域課題が存在

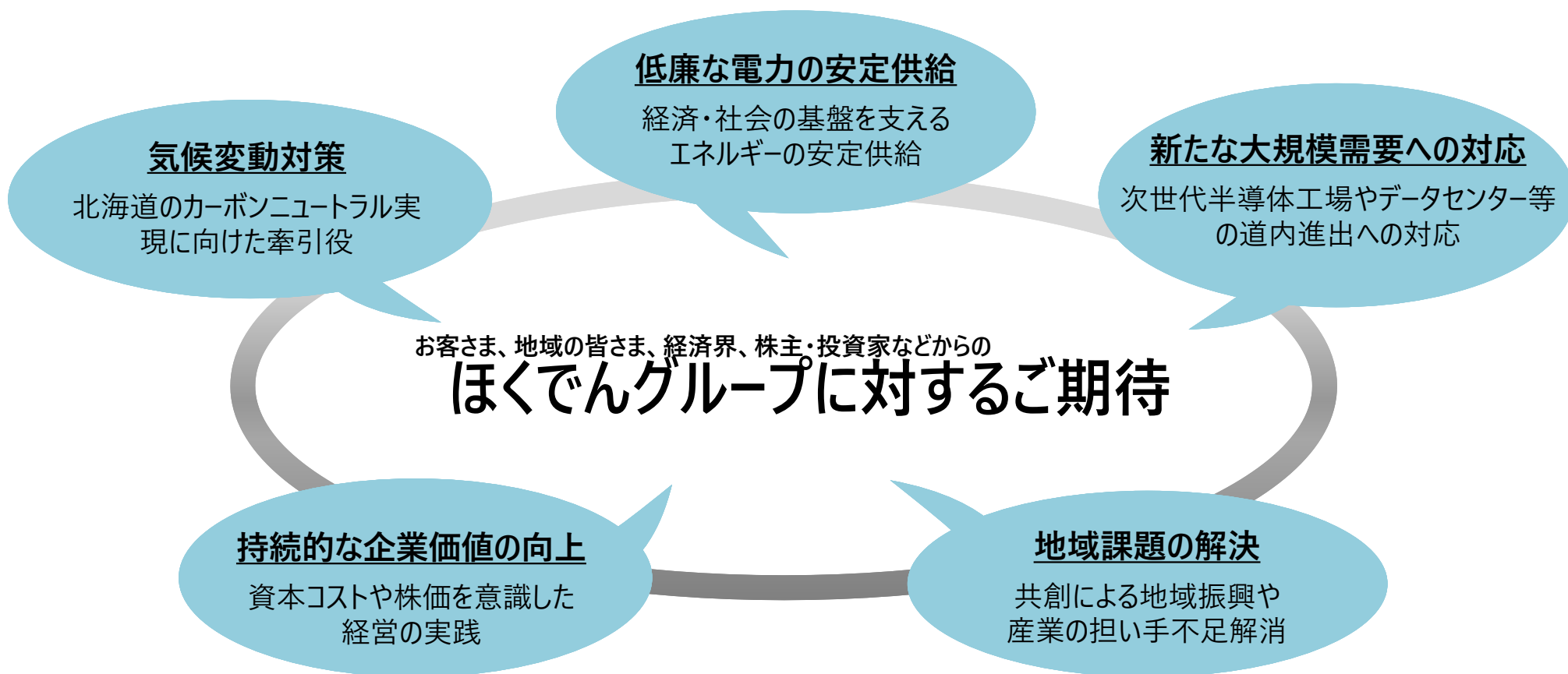
資本市場

・東京証券取引所から、全上場企業に対して、資本コストや株価を意識した経営を行うよう要請があった。

より一層、資本コストや資本収益性を重視する必要性

ほくでんグループに対する期待

- 経営環境の変化を的確に捉えるとともに、お客さまや地域の皆さま、経済界、株主・投資家など、様々なステークホルダーからの声に耳を傾け、ほくでんグループに対するご期待に応えていきます。



- ほくでんグループは、電力のプロフェッショナルとして培ってきた安定供給に対する責任感・使命感、技術・ノウハウを集合することで発揮される力（=ほくでん力）やグループとしての総合力、これまでに蓄積してきたお客さま・地域との信頼関係などの強みを有しています。
- 今後もこれらの強みを最大限活かしながら、新たな事業に積極的に取り組んでいきます。

ほくでんグループの強み

電力のプロフェッショナル

- 電力の安定供給を支える人材や使命感
- 発電所や送配電設備などの大規模資産を保有し、これらの保守・運転などにより得た技術・ノウハウ
- 積雪寒冷地に適した電化ノウハウ
- 需給運用、電力取引の知見
- エネルギーソリューション事業での先行実績

ほくでんグループとしての総合力

- 情報通信インフラの保守・運用の技術や実績
- システム開発の技術
- 不動産管理の知見
- 建設設計やコンサルの知見
- カイゼン・DXの推進を通じた業務変革

お客さま・地域との信頼関係

- 道内全域における顧客基盤
- 道内自治体・経済団体との繋がり
- 各地域における地域貢献活動
- ESGを含むサステナビリティを重視した事業運営

2030年までの
ほくでんグループ
の事業領域

【既存領域】

- 責任あるエネルギー供給の担い手として、電力を安定的に供給することで利益を生み出すとともに、各事業内での「選択と捨象」を行うことによりリソースを生み出し、変革領域へのシフトを進めていきます。

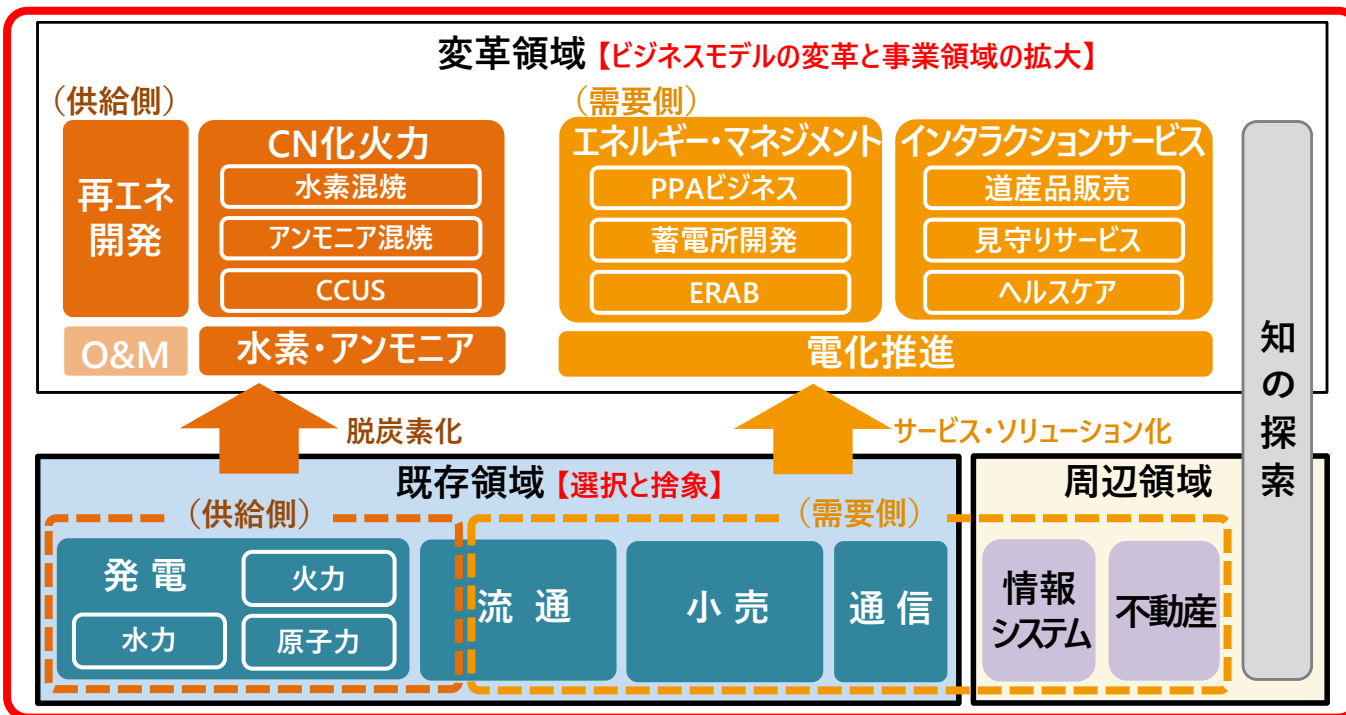
【変革領域】

- エネルギーの供給側においては、既存領域からの「脱炭素化」を進め、再生可能エネルギーの開発や、火力発電所での利活用も含めた水素・アンモニア領域の事業化等に取り組みます。
- エネルギーの需要側においては、既存領域からの「サービス・ソリューション化」により、エネルギー・マネジメントやインタラクティブサービス※等に取り組みます。
※お客さまや事業者、自治体等とのコミュニケーションを通じて新たな価値を創出するサービス
- これらの取り組みにより、着実に「ビジネスモデルの変革と事業領域の拡大」を果たしていきます。

地域の特色を活かした持続可能な社会における快適で健康的な暮らし（ウェルビーイング）の実現に向け、グループ一体となって取り組んでいきます。

2030年までの
ほくでんグループ
の事業領域

様々な事業を
組み合わせる
ことによるシナジ
ーの創出



共創

お客さま・
社会・地域

連携

パートナー
(企業・
自治体など)

凡例

既存領域

変革領域 (供給側)

変革領域 (需要側)

周辺領域

探索領域

- 2024年度は新たな成長ステージに立つとの認識のもと、新たな事業ポートフォリオを踏まえ、各事業において“価値創出に向けた取り組み”を着実に推進していくとともに、環境保全や人的資本の充実など、“持続可能な成長を支える取り組み”を両輪として進めていきます。

“新たな事業ポートフォリオ を踏まえた価値創出の取り組み”

電気事業の既存領域は「選択と捨象」をキーワードに変革領域へのリソースシフトを進めていく。

それにより、「ビジネスモデルの変革と事業領域の拡大」を進め、新たな価値を創出していく。

創出した価値を“持続可能な成長
を支える取り組み”に投資

“持続可能な成長を支える取り組み”

不確実性が高い経営環境においても成長し、企業価値を高めていくために、環境保全や共創の取り組み、人的資本やガバナンスの充実など、持続可能（サステナブル）な成長を支える取り組みを進めていく。

持続的な成長を下支え